

論文の内容の要旨

論文題目 中国の都市化過程における都市・農村一体化
政策と城郷計画制度に関する研究

氏名 金 慧卿

中国は1978年に改革開放政策を導入した以来、この35年間目覚ましい発展を遂げた。しかし、急速な経済成長および都市化過程において、都市と農村の二元構造による矛盾が顕在化しており、都市の無秩序な拡大及び農地の過度占用、拡大傾向にある都市と農村の格差、環境悪化など、もはや先送りできない多くの課題に直面している。特に、都市と農村の地域格差は中国の経済、社会発展に深刻な悪影響を与える。中国が長期にわたって社会的安定を保ちながら経済成長を続ける同時に、持続可能な発展を実現するためには、都市と農村の二元分割構造を改革し、調和のとれた都市と農村の融合を実現することが現在最優先すべきことである。

中国では2002年に、中国共産党第16回全国代表大会で「都市と農村の経済・社会の一体的発展」の目標が提出された。農村、農業及び農民の「3農」問題の解決を中国の最高レベルの任務としてその重要性を強調しており、さらに第11次五ヵ年計画では、社会主義新農村建設の全面実施が決定された。これによって、中国では中央から地方にわたって、都市と農村の一体化への試みが始まった。

また、都市と農村の計画管理制度においても大きな改革が行われた。「都市計画法」と「農村計画建設管理条例」で構成された従来の都市と農村の二元分割管理制度が、急速な都市化発展の管理需要を満たすことができなくなり、中国では2008年から「城郷計画法」が実行されるようになった。都市と農村の一体的管理を通じて、都市と農村における合理的な空間配置と秩序ある開発、土地資源の有効利用、都市と農村の格差是正及び都市と農村の一体的発展が期待される。

以上の背景・現状を踏まえた上で、本研究では、中国における都市と農村の関係及び都市計画制度の変容実態から、都市と農村の一体化政策及び現在の城郷計画制度の必然性・必要性を検討するとともに、都市と農村の格差是正及び農村発展の観点から、中国の都市化過程における都市・農村一体化政策の役割及び城郷計画における位置付けについて評価する。さらに、新農村建設の具体的実施事例の分析、評価を通じて、有効な都市・農村一体化政策及び農村発展計画のあり方について提言する。

本論文は、序章と本編7章から構成される。

序章では、本研究の背景、目的、方法、構成、キーワードについて述べる。

第1章では、都市と農村の関係に着目して、都市と農村の分離、一体化の二つの内容から、中国国内外の理論及び先行研究についてレビューを行う。また、イギリス、日本、韓国における都市・農村一体化の実践について考察し、その経験から中国における都市・農村一体化の実現への示唆を得る。

第2章では、中国における都市と農村の関係の発展過程について整理し、中国各地域の都市・農村関係の特徴を基に類型化分析を行う。また、中国における都市と農村の格差の実態について考察し、都市と農村の所得格差とその影響要因との相関関係分析を通じて、有効な都市と農村の格差是正の方法について検討する。さらに、中国の土地制度、城郷計画制度などについての定性分析を通じて、都市と農村の一体化計画の必要性・必然性について検討する。

第3章では、中国における都市・農村一体化政策の登場まで至る背景を分析したうえで、中国における都市・農村一体化政策の具体的な実施状況について明らかにする。また、新農村建設の手法について類型化分析を行い、中国地方レベルの都市・農村一体化政策の事例研究対象地域の選定を行う。また、中国における城郷計画制度の発展過程の整理と現在の城郷計画制度における都市・農村一体化の具体的な仕組みについての考察を行う。

第4章では、天津市、成都市、浙江省の3地域を事例として取り上げて、これら地域における都市・農村一体化政策と城郷計画制度の形成プロセス、制度的枠組み、実効性について特徴と課題を整理し、城郷計画制度における都市・農村一体化政策の位置付けを考察することから、中国地方における都市・農村一体化政策の実施状況を把握する。

第5章では、天津市におけるモデル小城镇と都市・農村一体化事業対象外村をケース・スタディーの事例として取り上げ、天津市における都市・農村一体化事業の実態、効果、課題について考察を行う。ケース・スタディーは、モデル小城镇と事業対象外村をそれぞれ近郊と遠隔郊外ごとに1集落ずつ選定して、行政と住民へのインタビュー、住民へのアンケート調査を通じて、農民の現状改善希望、政府の政策効果などに着目して考察を行う。

第6章では、結章として各分析内容を通じて得られた知見がまとめられ、中国における都市・農村一体化政策についての総合的評価が行われる。